

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

出会ったすべての人に感謝

通信教育部社会福祉学科卒業生 **佐藤日登美**

はじめに

私は岩手県花巻市在住の佐藤日登美と申します。この度は寄稿のご依頼をいただきありがとうございます。在学生の皆様に私の経験が少しでも勇気を与え、充実した学生生活を送っていただければ幸いです。私は2018年1年次に入学し、2022年3月に卒業いたしました。そして翌年1年間科目履修生として在学し、盛岡市社会福祉協議会で社会福祉援助実習を行い、2月には社会福祉士国家試験に臨み合格することが出来ました。思い起こせばこの5年間は勉強、仕事、家事、介護、地域の役員等これまでの人生の中でも色々なことが重なりましたが、全てが貴重な経験となりました。

東北福祉大学通信教育部の教職員の皆様、家族、職場、地域の方々に支えられてきた5年間であり出会ったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、最後のまとめとして社会福祉士国家試験に合格という目標を達成でき、嬉しさと安堵の気持ちが今になりじわじわと身に染みております。

専業主婦からのスタート

私は現在48歳、花巻社協の介護保険事業である訪問入浴介護の仕事に従事しております。20年前、専業主婦をしていた時に回覧板に入ってきた無料でとれる介護ヘルパーの資格が目にとまり、夫に協力してもらい介護ヘルパー2級の資格をとりました。その後週に1回社協のパートとして働き、最初に頂いた給料が2万5千円。専業主婦の私はとても嬉しく、「働

くっていいなあ。」と思ったことを今でも思い出します。その後、正規職員となり、介護福祉士、ケアマネージャーを独学で取得しました。ゲーテの言葉に「独学の危うさ」という言葉がありますが、次は社会福祉士の国家資格を目指すのと同時に、そればかりではなく第一に大学で福祉について深く勉強したいと考え、歴史と実践のある東北福祉大学通信部の入学を希望いたしました。

大学で勉強できる楽しみを胸にスクーリングのために仙台へ。日常から離れ、新花巻から仙台までの新幹線の中は少し旅行気分。スクーリングでは必ず前の席に座り集中して講義を受けました。また、自宅で何度も視聴できるオンデマンドも大変便利でした。そしてレポート作成は文献の多い県立図書館を活用し、休みの日を中心に集中して取り組みました。2回ほど再提出の科目もありましたが、その科目を再度考察することを重ね、自分の考えにも欠如している部分があることに気づき、学びを深めることができました。また、ノートに書き留めたことを家でも復習し、仕事や日常生活でアウトプットすることで知識の定着を図りました。

日常こそ答えがある

私は仕事や主婦の傍ら、地域の役員も担ってきました。頼まれごとなど、目の前のことを前向きにとらえてとにかくやってみました。中でも勉強になったのは公安委員から委嘱され警察署協議会の委員になったことです。これは、地域住民が参加する、警察の諮問機関であり、3期6年のうち、最後の2年間は初の最年少女性会長を務め大変貴重な経験をさせていただきました。地域には多種多様な問題があふれており、交通安全や治安、特殊詐欺、認知症徘徊問題等、解決や取り組みのために警察も地域との連携が重要になることを学びました。また、講演会があれば参加し、中でも九州佐世保でおきた小学生殺人事件の加害者家族を取材した新聞記者

の講演会は、更生保護を考える大変勉強になった講演会でした。このことは、大学での学びにも役立ちました。少年犯罪の種類に加え、更生保護の仕組みや司法等すんなりと頭に入り、大学での学びはすべてが関連しており、無駄なことは何一つないんだと考えることができました。国試の勉強も普段の仕事、日常生活に答えが沢山あり、様々な経験をするのがこんなにも大切なんだと実感しました。

また、日常生活では同居しているアルツハイマー認知症の義理の母の介護も大変なこともあります。認知症を理解でき、仕事上では利用者家族の気持ちが分かったりと貴重な経験になっております。何事も前向きに考え取り組んでみる。講演会や研修会があったらまず足を運んでみるなど、日常を丁寧に生活することでレポートの作成にも自分の考えを表現することができたように思います。

最後に

私は国試の勉強も対策講座に通って集中して前の席で受講しました。実習が終わったのが9月末でしたので、その後秋からからスイッチが入りました。毎回仙台まで対策講座に通い、講師の先生が用意したプリントに的を絞りを絞って、過去問を繰り返し解き最後は予想問題に取り組みました。レポート作成と同様、試験勉強も土日仕事の休みに集中して開館から閉館まで図書館で行いました。そしてまた、試験対策も大変重要になりますが、それに加え、スクーリング、レポート作成、実習への取り組みを集中して行うことも重要になると考えます。日々の生活の中にも答えはあふれていると考えます。大学での学び、仕事等日常生活を丁寧にすることで知識と知識を繋ぎ合わせることも、合格の近道になるのではないのでしょうか。

最後に私の娘も2018年一緒に東北福祉大学教育学部に入學し、2022年3月一緒に卒業しました。辛いときも傍で支えてくれたのが娘です。私の良

き理解者です。現在盛岡市内の小学校で教諭をし、2年目になります。福祉大での学びを私たち親子は誇りに思っております。教育と福祉、福祉大での学びは仕事でも実践でき、大変貴重で有意義なものとなりました。

専業主婦からのスタート。あきらめず地道に取り組めば夢は叶うものと確信しました。そして大学での学びの先に、国試の合格がありました。今後も学びを継続し、仕事や日常生活に生かしていきたいと思います。これまで支えてくださった先生方、出会ったすべての皆様に心から感謝申し上げます。

